

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|--|----|--------|
| 報告番号 | 博(生)甲第206号 | 氏名 | 後藤 大太郎 |
| 学位審査委員 | 主査 中村 修 副査 武政 剛弘 副査 早瀬 隆司 副査 保坂 稔 | | |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>後藤大太郎氏は、2004年4月に長崎大学大学院生産科学研究科博士後期課程に社会人学生として入学し、現在に至っている。同氏は、生産科学研究科に入学以降、環境科学を専攻して所定の単位を修得するとともに、環境マネジメントシステムに関する研究に従事し、その成果を2009年12月に主論文「ISO マネジメントシステムの運用に関する研究」として完成させ、参考論文として、学位論文の印刷公表論文2編（うち審査付き論文2編）、学位の基礎となる論文2編（うち審査付き論文0編）、その他の論文6編（うち審査付き論文0編）を付して、博士（環境科学）の学位の申請をした。長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、2009年12月16日の定例教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2010年2月17日の生産科学研究科教授会に報告した。</p> <p>本論文は、多様なマネジメントシステムの運用において共通する課題を明らかにしたものである。現在、品質マネジメントシステムのISO9001や環境マネジメントシステムのISO14001、情報セキュリティマネジメントシステムや医療機器品質マネジメントシステム、食品安全マネジメントシステムや労働安全マネジメントシステムなどといった様々なマネジメントシステムが、各種機関により制定されている。しかし、マネジメントシステムを運用するにあたり、企業の運用方法、記録の多さなど様々な問題点がとりあげられており、運用に効果を感じていない企業も多い。そこで本論文では、運用組織が多いISO9001（品質マネジメントシステム）、ISO14001（環境マネジメントシステム）に焦点をあて、マネジメントシステムに共通する運用上の問題点を調査などで分析し、問題の所在を明らかにした。これをふまえて、マネジメントシステムのより優れた運用について検討したものである。</p> <p>以上のように本論文は、環境マネジメントシステムのみならず、多くのマネジメントシステ</p> | | | |

ムに共通する運用、手法の改善に関する科学的根拠を提示したという意味において、環境マネジメント研究に関して多大の寄与をするものと評価できる。

学位審査委員会は、環境マネジメントシステム研究の分野において極めて有益な成果を得るとともに、環境科学の進歩発展に貢献するところが大きく、博士（環境科学）の学位に値するものとして合格と判定した。